

# 令和3年度赤穂中学校キャリア教育のまとめ

上伊那教育会 キャリア教育委員会

赤穂中学校 橋本亜門

## 1 はじめに

キャリア教育とは、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していきることができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。したがって、キャリア教育は、子ども・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子ども・若者の姿なのである。これらのことをふまえ、平成23年に中央教育審議会がキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義した。 (『文部科学省 キャリア教育』より抜粋)

キャリア教育が目指す「自立」と4つの基礎的汎用的能力が以下のように示されている。

### 基礎的汎用的能力

- 1 人間関係形成・社会形成能力
- 2 自己理解・自己管理能力
- 3 課題対応能力
- 4 キャリアプランニング能力

これらの能力の育成のために、赤穂中学校では次のように、学年・学級ごとにキャリア学習を進めてきた。

### ●令和3年度総合的な学習の時間年間指導計画 (年度当初案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	修学旅行	宿泊学習 職業体験		西駒登山	運動会	白鈴祭		合唱 コンクール				
時数 (学年 毎)	1年：2、 2年：10、 (3年：2)	1年：6、 2年：4、 3年：13	1年：4、 2年：2、 3年：6	1年：8、 2年：4、 3年：9	0	8	4	1年：4、 2年：4、 3年：5	1年：3、 2年：4、 3年：2	1年：2、 2年：2、 3年：3	1年：5、 2年：6、 3年：6	2
1年	乗鞍宿泊体験学習 8時間 ・キャンプファイヤーでの出し物を考え、練習する。 ・学級やグループごとに体験を行う。 ・体験したことをまとめる。		誰かのために働く。 12時間 ・職業適性検査。 ・身近な人の職業調べ。 ・夢マップの製作。 ・進路講話。		白鈴祭で学習のまとめを発表しよう 8時間 ・これまで学習してきたことを用紙にまとめ、白鈴祭で展示発表する。		合唱コンクールに向けた歌練習をする。  比較的時数に余裕があるので、学級ごとの活動を仕組める可能性がある。		何のために働くのだろうか 8時間 ・インタビュー活動、調査活動をもとに、自己との対話の中で、「働くこと」に対して自分の考えをもつ。 ・JICAについて学ぶ。 ・JICAの方の講話。 ・進路講話。 ・職業体験の事業所決め。		新入生を迎えるために ・学校生活、 ・自己の生活の振り返り。 ・発表しよう。	
2年	キャリアフェスにむけた学習 14時間 ・キャリアフェスに向けて、興味のある職業について調べる等を通して、働くことの意義を考える。		登山の魅力を知ろう。 6時間 ・西駒登山に向けて、登山の基本や西駒の自然について調べ学習をする。		白鈴祭で学習のまとめを発表しよう 6時間 ・これまで学習してきたことを用紙にまとめ、白鈴祭で展示発表する。  創ろう私の生徒会 6時間 ・自分たちが創りたい生徒会を考え、それに向けて自分がどのように参画できるのかを考える。		合唱コンクールに向けた歌練習をする。  奈良・京都観光プラン学習 12時間 ・修学旅行の奈良、京都の行動プランを考える。 ・それぞれの観光地について理解を深める。					
3年	奈良・京都プラン学習 12時間 ・自分たちの立てたプランに沿って修学旅行を実施し、実際に旅行してみて感じたことを踏まえて、プランの紹介を作成する。  高校調べ学習 16時間 ・自分の興味のある高校について調べ、まとめる。 ・地元の高校の先輩や先生に来ていただき、話を聞く。				白鈴祭で学習のまとめを発表しよう 8時間 ・これまで学習してきたことを用紙にまとめ、白鈴祭で展示発表する。		南部音楽会や合唱コンクールに向けた歌練習をする。  比較的時数に余裕があるので、学級ごとの活動を仕組める。		今までのわたしとこれからのわたし。 8時間 ・これまでの学習を振り返り、自己との対話の中で、未来の自分を想像し、これからの自己のあり方について考える。			

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、計画当初のような活動ができず例えば、2回実施予定だったキャリアフェスティバルも1回になったり、1年生のJICA交流が本年度中止になったりしたが、別の形をとることで子どもたちの基礎的汎用的能力の育成を図ってきた。

1学年では、7人の担任による自身のキャリアの紹介をリモートで行い、個性あふれる授業を行った。2学年では、キャリアフェスティバルを1回にしたかわりに、今まで以上に事前学習での企業の講師の方々との連絡を綿密に行い、当日は充実としたものとなった。また、3年次に行う進路ガイダンスを先取りし、現3年の進路指導主事による各学級へのガイダンスを行うことで、生徒の多くが見通しを持つことができた。

今回のまとめでは、本年度新たに実施した、1学年の担任キャリア紹介学習と、私の担当学年である『2学年のキャリアフェスティバル in 赤穂中』について実践報告を行う。

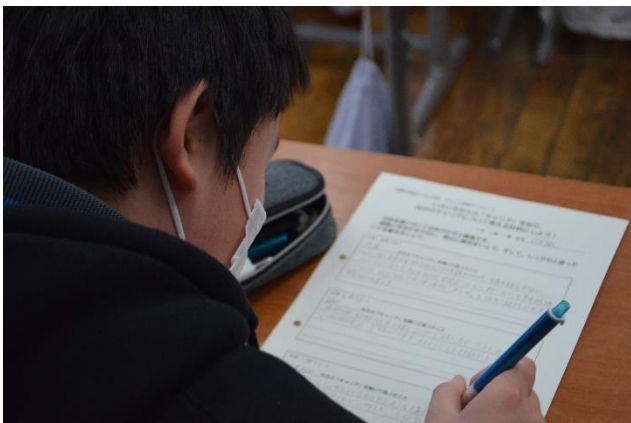
## 2 実践報告

◎1学年『身近な人のキャリアを知り、自分のキャリアについて考える材料にしよう！』

### ①ねらい

生徒が学校生活で得られた様々な経験を振り返ったり、先生のキャリアを聞いたりすることを通して、キャリアの定義や特徴を理解できる。また様々な人生の様々な経緯や体験があることを知ってもらい、自分のキャリア作りのきっかけにしてもらう。この2つを目的として、1学年の先生が自身のキャリアの紹介する学習を行った。

### ②学習の様子・生徒の感想



〇〇先生の人生の歩みを知れて、意外な一面があったことにビックリした。人生の中の経験したことが、たとえば自分にとってマイナスなことであっても、その人の成長につながっていることがわかって、失敗することも大事だなんて思った。

人の目を気にせず、不得意なことでも一生懸命頑張った□□先生がかっこいいと思った。苦手なことでも長年続けていけば、それがその人の仕事になることもあるとして驚いた。

今日までで3人の先生の人生を紹介してもらったけど、どの先生も山あり谷ありで、だれもいつでも楽しいわけじゃないんだとわかった。自分も苦しいときこそ頑張れるようになりたいと思った。他の先生の紹介もとても楽しみです。

## ◎2学年『キャリアフェスティバル in 赤穂中』

### ①事前学習と実行委員の立ち上げ

昨年を除き、近年継続して行ってきたキャリアフェスティバルだが、今年度は新たな取り組みとして、来ていただく講師の方の職種を生徒に希望調査を行い、それをもとに市教委と連携しながらアポイントを取っていくという試みを行った。事前学習として、職業調べや上伊那の企業調べなどを行ったあと、各クラス4名×7の28人を委員として実行委員会を立ち上げた。当初は、2回行う予定だったため1回目はアポイントメントや打ち合わせを市教委と教員で行い、2回目は生徒主体で行う計画だった。感染症の拡大により1回のみの実施となってしまったが、実施までの日程に余裕が出たため、実行委員会を多く設定することで、その1回を生徒主体で企画・運営することができた。実行委員は電話連絡でのアポ取りに始まり、当日までに準備を進めたり、当日はブースの準備・進行・片付けを行ったりするなど、充実した活動となった。

### ②当日の様子・生徒の感想

上伊那で働いている様々な職種の方を講師として、ブース（1ブース10人程度）を開いていただいた。生徒は1人2ブースを周り、学びを深めることができた。来ていただいた講師は18職種で、25名の方々に30分の体験や質疑応答を含むキャリア学習を行っていただいた。

<キャリアフェスティバル各ブースの様子>



## <生徒感想・まとめ>

働くとは.....人生をより充実させること。

1年生の時は、おうちの人に取材してわかったこと私の両親は学校教師をしている。母に取材をした。やっぱり、お金はもちろん大切に貰えないと生きていけないけど、母は働く目的をお金をもらうってこともあるけど、子どもたちに勉強って楽しいんだよってことを多くのひとに知ってほしいからだと言っていた。

2年生になって興味のある仕事や、今まで知らなかったことについて学んだ。

2つの仕事について調べたり聞いたりしたけど、結局どの仕事につくのにも今からの勉強が必要不可欠ってことを学んだ。

まだこれって言う夢は私にはないけどいつあれになりたいって思っても大丈夫なように、将来の生き方の選択肢を増やせるように、今から先を見据えて勉強を頑張りたいと思う。貴重な経験だった。

働いている人たちに共通していたことは、自分の仕事に誇りを持っていることなどだった。

自分の仕事にある社会的責任を感じており、自分の仕事によって幸せになることができる人がいることを考えた上で責任感を持って仕事をしている。

2つの職業の話聞いたが、両方で出てきた「この職業に向いている人」には2つの共通する条件があった。

1つは、「この仕事（この仕事に関すること）が好きなこと」だった。

好きなことを仕事にすることに関しては給料が少ない風潮があるが、私はこの仕事が楽しく、やりがい、誇りを感じている。と講師の方から聞いた。嫌いなことより好きなことを仕事にした方が楽しく、長続きするのだろうと思った。もう1つは、「学習意欲がある人」だった。仕事をしていく上で新しく学ぶことも多くあり、その都度覚えていかなければならない。

このように働くことは大変なことも多いようだが、やりがいを持って仕事を行うことが大切だということがわかった。

去年の親に仕事のことをインタビューしたときはあまり深掘りせずに終わったけれど、今回のキャリアフェスティバルを通して、「働く」とはどんなことか自分で深く自分なりに考える事ができました。

私の考える「働く」とは、「大変さと楽しさとやりがいを学ぶ場」。

仕事をしていると、どうしても大変なこと、嫌なこと、落ち込むこともあると思います。でもその中でも少しばかりでも楽しさや嬉しさがあって、それを乗り越えて「やりがい」というものが生まれるのではと思います。

私も将来働いていく上で大変なことがあったり苦しいこと、諦めたくなることも出てきたりするかもしれませんが、それを乗り越えた人だけが味わえる「やりがい」を感じられるように、まずはやりがいを感じられる仕事に就けるように勉強を頑張りたいです。

そして将来、最終的には自分のやりたい仕事に就けるようにしたいです。

### 3 今後の課題と展望

4つの能力の育成のため、各学年の特色あるキャリア教育を行ってきた。学年の先生や、地域の社会人と言った、身近な大人から直接“キャリア”を学ぶことで、人生観や仕事のやりがいについて深く考えることができています。今後もこのような学習の取り組みを続け、生徒の基礎的汎用的能力の向上を図っていきたい。次年度以降は、身近な「大人」に限らず、上伊那の他の中学校でも実施しているような、卒業生（高校生）を招き、今後の人生選択や、自身のキャリアについて語ってもらうような学習を検討し、生徒にとってより近いキャリア学習を行っていきたいと考える。どのような形をとっても、自己理解をし、これからの人生について“自分で”選択をし、選択をした進路に責任を持てるような生徒の育成が図れるように、キャリア教育を計画・実施していく。